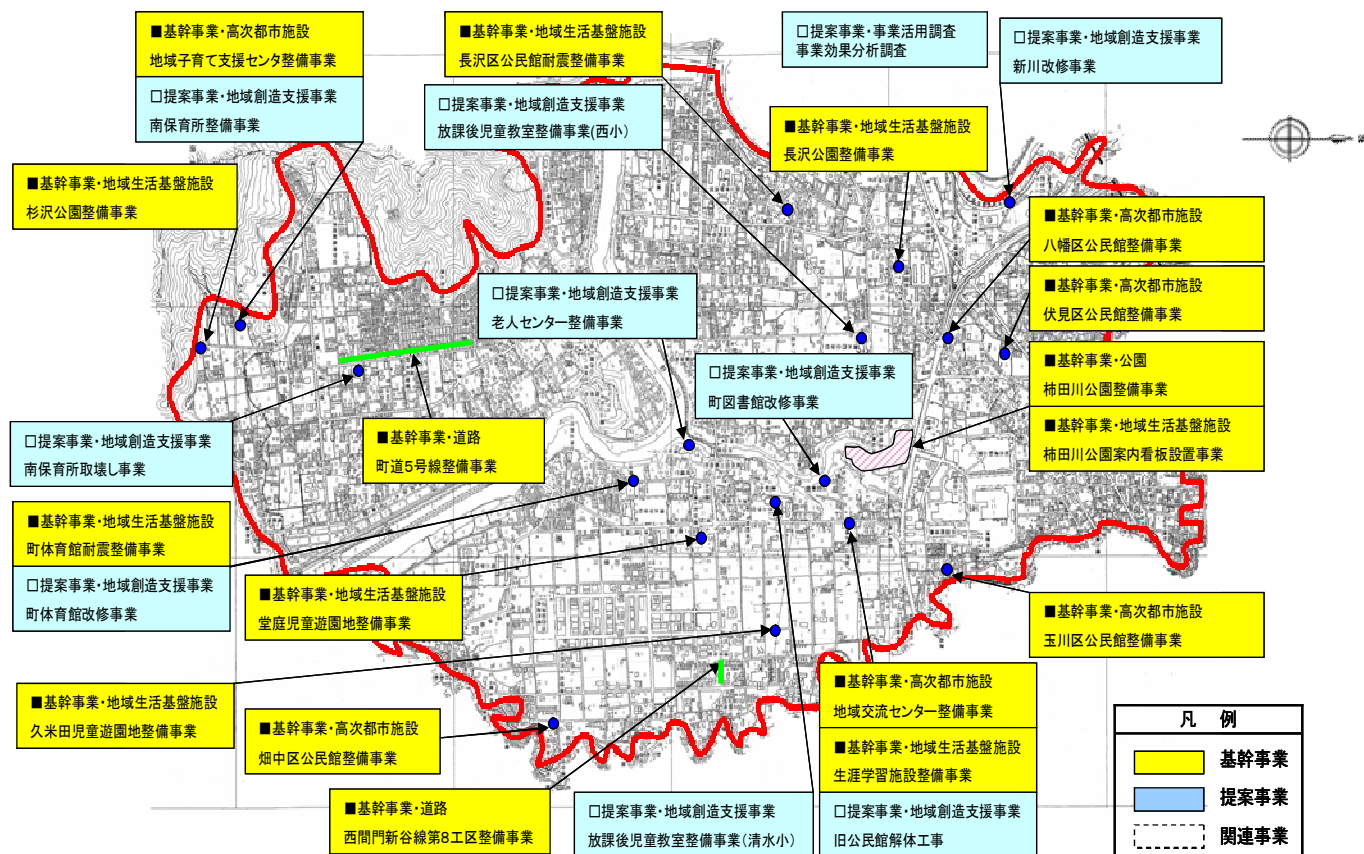




地区の現況と課題

多くの人たちが交流しにぎわいを創出する交流拠点が必要である。
安心して仕事や子育てができるよう子育て環境の充実が必要である。
公共施設が老朽化し著しく耐震性が劣る建物が多数ある。

提案事業の特徴

公共施設のバリアフリー化及び耐震化

老人センターの耐震化や図書館のバリアフリー化整備により、高齢者が安全で快適に過ごせる環境になった。

保育所整備

老朽化した保育所を整備し子育て支援活動の内容が充実し活発な活動が行われている。

放課後児童教室整備

学校の空き教室などを利用していたが専用の教室を整備し、待機児童の解消に繋がっている。

計画策定プロセス

町民アンケート等の結果による地域住民からの要請があったものや緊急性、優先度の高いものを考慮して事業を計画した。

全国でも有数の清流柿田川の自然を生かした柿田川公園の整備を中心に、その周辺の地域交流センター、図書館、児童公園の整備を進め、これら施設の相乗効果により、人々の交流とにぎわいを創出する。

特に目が離せない幼児から小学生までの年代を幅広く支援するため、保育施設、子育て支援施設、放課後児童教室を整備し、子育て環境の充実を図る。

地域の防災拠点である各自治区の公民館整備、各種公共施設の耐震化やバリアフリー化、河川、道路の整備を進め、安全安心なまちづくりを進める。

清水町長のコメント

全国でも有数の清流「柿田川」の豊かな自然と国道1号などの幹線道路が整備され、商業の発展とともに子育て世代を中心に住宅地として発達した自然と都市の調和がとれた笑顔があふれこちよく住み続けたいまちを目指しています。

評価委員会の評価

保育所待機児童数は、減少したことが認められるが、なお待機児童がいるならば、さらなる努力が必要である。

地域交流センター運営委員会が組織されたことで、検討内容が随時施設の改良に反映されており、効果発現に寄与している。

地域交流センター整備により町の文化度が向上した。

柿田川周辺の外来種の除去は早急に実施するべきである。

地域交流センターの今後の活用として、地縁の交流に貢献するような活動を検討する必要がある。



▲ 図書館バリアフリー化事業



▼ 園内の案内板を改修し回遊性を高めた



▲ 柿田川公園の様子



▲ 地域交流センター整備事業 ▼



▲ 著名絵本作家による講演会の様子